

看護短大生と文系短大生の性意識・性行動に関する調査とその比較

Study on Comparison of Sexual Consciousness and Sexual Behavior between Liberal Arts Course and Nursing College of Junior College Students

石沢 敦子

要 約

本研究の目的は、看護短大生と一般文系短大生の比較から、看護短大生の性意識・性行動の特徴を明らかにすることである。性教育は文系短大生は100%、看護短大生は96.2%が受講、「中・高・小学校」が中心であった。セックスについての情報源・イメージは文系短大生・看護短大生共に「友人」からが最も多くついで「雑誌、本、テレビ、ビデオ」の順になった。セックス初体験年齢は全体で、16歳～17歳が47.88%とほぼ半数を占めた。

セックスをするときに心配なものは、共に「妊娠」であるが、短大生は次に「関係の変化」で、看護短大生では「性感染症」となった。今回の調査結果より下記のことが判明した。

- 1) 性教育は文系短大・看護短大生共に入学以前の学校教育が中心になり、以後、看護短大生に行われた教育は性意識や性行動に反映されていない。
- 2) 性意識・性行動共に文系短大生・看護短大生の大きな差はなかった。
- 3) 避妊については、文系短大生・看護短大生共に、情報や知識はあっても確実な方法が実施されていない。
- 4) 性感染症については認知度は高いが、防衛対策までの認識は薄い。

キーワード：性意識，性知識，性行動，看護短大生，短大生

はじめに

研究方法

現在、性に関する意識は開放的となり性行動も低年齢化と日常化している。それに伴い10代女性の人工妊娠中絶の増加、10代～20代のエイズ感染者の急増、性行為感染者の増加など性行為に関わる問題が社会的にも問題になっている。これは将来母親、父親となる若者にとって母子感染や不妊症の原因になるなど母子保健上重大な問題となる。マスコミ等にも取り上げられ、若年者の性行動についてはすでに調査されている。しかし将来健康を守る仕事につく看護を目指す学生の意識はどのようなものであるか、また、同世代の人と比べ特異的な傾向があるか知られていない。そこで今回、看護短大生と一般短大生の比較から、看護短大生の性意識・性行動の特徴を明らかにし、母性看護学における教育のあり方を探る基礎資料とすることを目的に調査、検討を行った。

- 1) 調査対象
G県内文系短期大学の学生（女子）100名
G県A看護短期大学生1年生71名，2年生81名，3年生69名
- 2) 調査期間
G県文系短期大学生 2005年6月
G県A看護短期大学生 2005年5月
- 3) 調査方法と倫理的配慮 自記式質問紙による調査研究。研究の目的と調査への協力は学校の成績などと一切関係しないことを説明し、同意の得られた学生を対象に無記名で調査を行った。回答後は封筒に入れ回収用ボックスで回収を行った。
- 4) 回収率 G県内文系短期大学の学生 76名（76%）
G県A看護短期大学生 1年生70名，2年生72名，3年生61名（91.85%）
- 5) 調査内容 対象の特性、性教育について、性への意識（性行動に対する関心、性交、セックスに対す

る考え方) 性行動 (初交体験年齢) 妊娠避妊に対する知識と意識と行動, 性感染症に対する知識と考えについて多肢選択及び記述で調査した。

用語の定義

「セックス」は性, 性別, 性交をさすが, 本研究では必ずしも性交に限らず性器への接触があり, 性的な快感があることとする。「性行動」とは性欲に基づく行為全般及び性交をさし, 本研究でも性器の接触を伴わない行為も含める。「性意識」はセクシャリティ全般における意識をさすが, 本研究では上記セックスに対する意識をいう。

結果

1) 学生の属性 看護短期大学生, 平均年齢は19.8歳であった。文系短期大学生, 平均年齢は19.2歳であった。

2) 性教育について

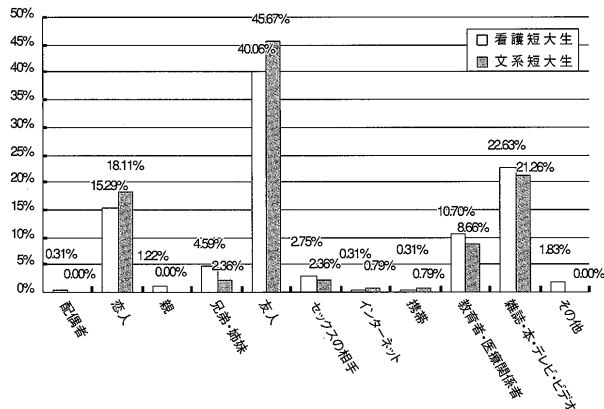
性教育は文系短大生は100%, 看護短大生は96.2%が受講, 「中・高・小学校」が中心であった。又学校以外では, 文系短大生は「医療関係者」が31.4%「友人」5.50%で看護短大生は「友人」4.79%「先輩」1.60%であった。両親を見ると「父親」「母親」からは文系短大生, 看護短大生共に約0.41%が受けていた。

性教育の内容については「身体の仕組み」「妊娠」「避妊」「性感染症」「セックス」の5項目についてであり文系短大生と看護短大生に差は無かった。

3) 性意識

セックスについての情報源・イメージは文系短大生・看護短大生共に「友人」からが最も多くついで「雑誌, 本, テレビ, ビデオ」の順になった。(図1)

図1 セックスについての情報源



セックスとはどういうものかについては, 文系短大生・看護短大生共に上位は「愛情表現」34.22%

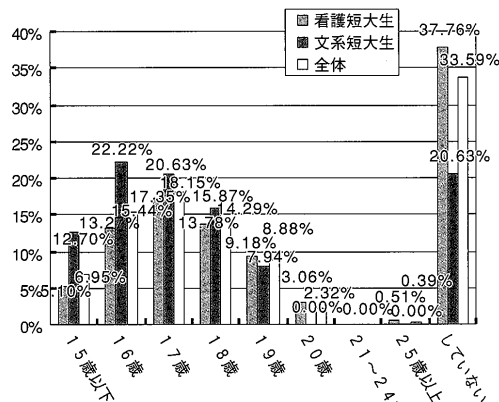
「ふれあい」23.23%「子どもを作るための行為」14.76%となった。

交際相手とのセックスの会話は, 「よく会話する」「たまに会話する」共に半数以上を占めた。

4) 性行動

セックス初体験年齢は全体で, 16歳~18歳が47.88%とほぼ半数を占めた。(図2)

図2 初めてセックスした年齢



セックスをするときに心配なものは, 共に「妊娠」であるが, 短大生は次に「関係の変化」で, 看護短大生では「性感染症」となった。

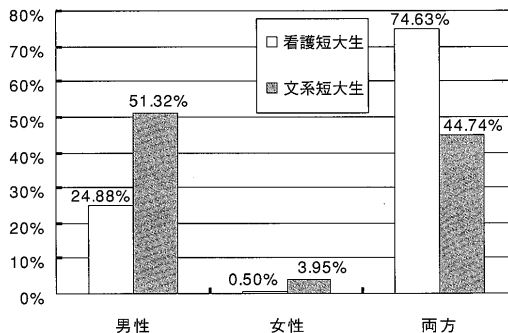
5) 妊娠・避妊について

「避妊の必要性」については共に90%以上が「必要」と答えていた。

避妊を行わない理由としては, 共に「面倒」「雰囲気」に流される」「自分は平気」と言う理由が多かった。看護短大生の中では学年による差は認められなかった。

避妊はどちらがするべきかという問いに対しては文系短大生では「男性」51.32%「両方」44.74%であった。看護短大生では「両方」74.63%「男性」24.88%となった。(図3)

図3 避妊はどちらがするべきか



自分の排卵日については, 「知っている」と答えた短大生は19.74%で, 看護短大生は37.81%であった。(図4) うち看護短大生の学年による比較では3年生が

76%となった。

避妊についての情報は共に「友人」「医療職」「本・雑誌・テレビ」が上位を占めた。

知っている避妊方法は文系短大生は「コンドーム（男性用）」28.63%「ピル」16.53%「コンドーム（女性用）」13.31%「セックスをしない」12.50%。看護短大生は「コンドーム（男）」20.84%「ピル」14.25%「基礎体温」12.74%「膣外射精」10.15%の順になった。しかし、看護短大生の学年による比較では大きな差は認められなかった。

図4 排卵日を知っていますか

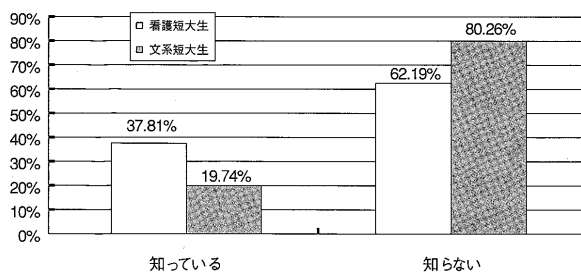


図5 避妊についての情報源

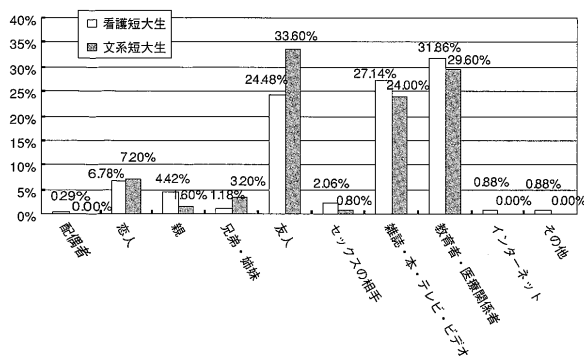
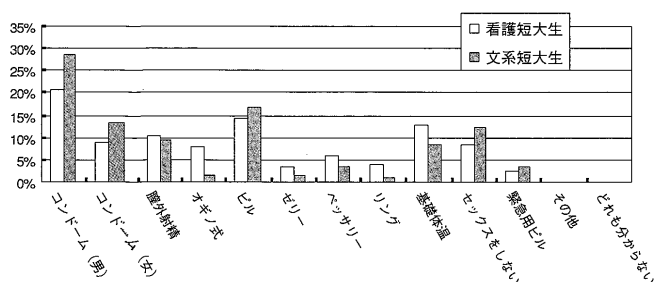


図6 正確に知っている避妊法



自分がとる避妊の方法については文系短大生では63.92%が「コンドーム（男性用）」について「セックスをしない」9.28%「コンドーム（女性用）」8.25%となった。看護短大生では46.49%が「コンドーム（男性用）」について「基礎体温」16.22%「セックスしない」10.0%「膣外射精」9.9%となった。（図7）

避妊方法の選択理由は共に上位3位までが同じで、「方法が簡単」37.36%「手に入りやすい」27.47%

「自分で防ぐことができる」15.93%の順になった。

図7 今避妊するとしたらとる方法

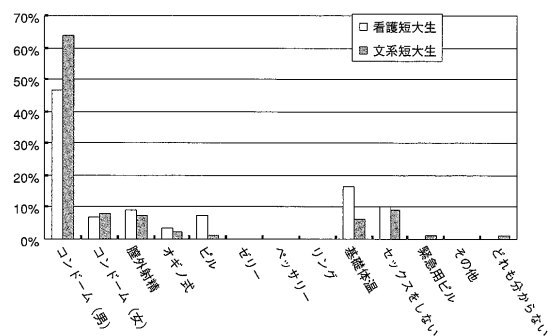
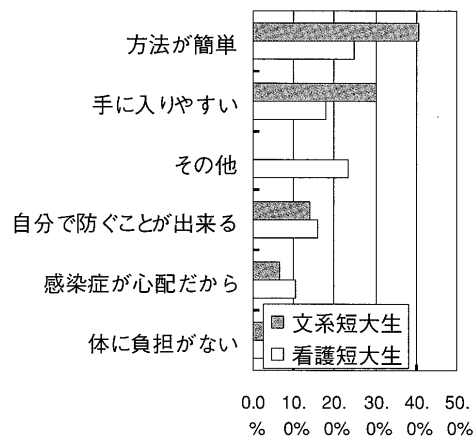


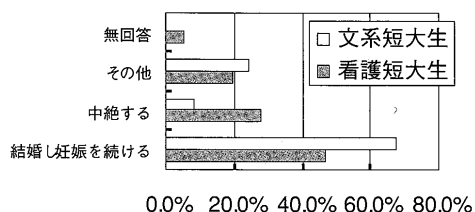
図8 方法を選択した理由



人工妊娠中絶のイメージは共に、「胎児がかわいそう」「怖い」「罪深い行為」と上位3位まではほぼ同数で、約72%を占めた。ついで文系短大生は「痛そう」15.35%であり、看護短大生は「後遺症が心配」13.12%となった。

妊娠した場合では文系短大生は「結婚」32.43%と「出産」35.14%となったが、それに対し看護短大生は「出産」28.72%「中絶」28.21%「結婚」23.08%の順であった。

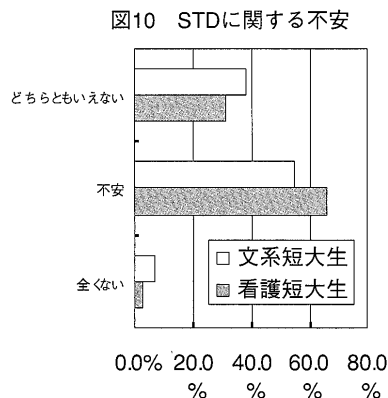
図9 交際中、妊娠したらどうするか



6) 性感染症について

名称について多少の差はあるが、幅広く知っていた。しかし、症状や治療法は半数以上が「知らない」と答えた。感染に対して「不安あり」が文系短大

生・看護短大生共に約半数を占めた。



考 察

1) 性教育・性意識について

性教育については、共に小・中・高の学校教育はほぼ同じと考えられる。看護短大生は母性看護学の授業の中で、2年生前期に母性看護学概論及び母子保健15時間、2年生通年に母性看護学60時間、3年生で母性看護学実習90時間を受講しているが意識されていない。これは¹⁾ 関塚ら²⁾の性意識・性行動調査においての教育前後の差が無いという結果と同じと考えられる。セックスについての情報源やイメージも短大生・看護短大生共に「友人」という結果になり学校教育以外では「両親」の存在は薄く、家庭では教育がなされないことが分かる。

2) 性行動・妊娠・避妊について

性体験の平均年齢は共に16～18歳で約半数が体験していた。これは他の研究からも平均的であると考えられる³⁾。

セックスをするとき一番心配なことは共に「妊娠」であり「避妊の必要性」については90%以上が必要と答えているが、避妊の手段は「簡単・手に入りやすい」理由から「コンドーム」による避妊法が圧倒的に多い。「コンドーム」は学校教育の性教育に取り入れられたことや、エイズ感染防止運動などにより若者の中に浸透したものと考えられるが、その他の行われている手段では、「ピル」を除けば確実性があるとは言えない。又、コンドームの選択理由として看護短大生は「性感染症の予防」を4番目に選択しているなど意識としては薄いことが分かる。

ピルについては避妊の確実性や女性主導性として「ピル解禁」が話題になったためか、その認識は2番目にあるが実際には選択されていない結果となった。自分が実際に使用するとすると、「使用方法が正確に

わからない」「買いにくい」「売っている場所が分からない」等があげられ、避妊を行わない理由として「面倒」「雰囲気流される」「自分は平気」等の理由と併せて選択に至らないことが分かる。確実に浸透する対策が必要と考えられる。

避妊は文系短大生では「両方」と「男性」が行うと答えており、看護短大生は「両方」が選択されている。しかし、実際に実行されている方法は文系短大生・看護短大生ともにコンドームが多く、男性主導型となっている。しかし、コンドームに対して「自分で防ぐことが出来る」と答えているものも多く、これは先行研究からコンドームの装着をパートナーに言えると答えるものが多い結果、このような認識となっていると考えられる。

「妊娠」した場合にとる行動として、文系短大生は「出産」「結婚」を多く選択しているが、看護短大生は、「出産」「中絶」「結婚」の順に大きく3つに分かれた。人工妊娠中絶についてのイメージは文系短大生・看護短大生共に上位は同じであるが看護短大生の方に約13%は「後遺症が心配」をあげている。人工妊娠中絶に対する知識はあるが看護師としてのライセンスを獲得し、専門職としての目標があるために「中絶」と言う選択がされたものと推測される。より確実な避妊への知識をつけることが必要とされる。

3) 性感染症について

性感染症については、共にマスコミなどの影響も伴い認知度は高いが「不安」や「怖い病気」との認識にとどまり、避妊方法の選択からも対策までには至らないことが分かる。又、看護短大生の学年による差はほとんど認められず、看護短大入学後の学習が活かされないと考えられる。

結 論

- 1) 性教育は文系短大・看護短大生共に入学以前の学校教育が中心になり、以後、看護短大生に行われた教育は性意識や性行動に反映されていない。
- 2) 性意識・性行動共に文系短大生・看護短大生の大きな差はなかった。
- 3) 避妊については、文系短大生・看護短大生共に、情報や知識はあっても確実な方法が実施されていない。
- 4) 性感染症については認知度は高いが、防衛対策までの認識は薄い。

7. まとめ

今回、この調査を通して看護学生・文系短期大学生の性意識・性行動について考察する機会をえた。

結果は全項目にわたって文系短大生・看護学生に差は少なく，看護学の授業などからも触れられているにも関わらず，避妊方法は十分と言える方法はとられていなかった．今後，学習する機会，情報はあっても行動を変容するに至らない要因を考えることが必要であることが示唆された．

引用文献

- 1) 劔陽子ら：北九州の高校3項における性意識・性行動調査.日衛誌, 56：64-67, 2002.
- 2) 関塚真由美ら：看護学生の性意識・性行動の実態とHPV・CT感染との関連性. 思春期学, 20(1), 2002.
- 3) 財団法人日本製教育協会編：「若者の性」白書第5回青少年の性行動調査報告. 小学館（東京）, 2001.
- 4) NHK[日本人の性]プロジェクト：データブックNHK日本人の性行動・性意識. NHK出版（東京）, 2002.
- 5) 波多野義郎, 松田智香子：福祉系大学生における性意識・性行動について. 九州保健福祉大学研究紀要, 2：35-42, 2001.

Study on Comparison of Sexual Consciousness and Sexual Behavior between Liberal Arts Course and Nursing College of Junior College Students

Atsuko Ishizawa

Abstract

The purpose of this study is to clarify the characteristics of sexual consciousness and sexual behavior between liberal arts course and nursing college of junior college students. Hundred percent of students of liberal arts course and 96.2% of nursing students reported that they took sex education class mostly in elementary, junior high or senior high school.

Both students of liberal arts course and nursing course reported [Friend] as the source of sex information and image at most followed by [Magazines, books, TV, and video]. About half of the entire students (47.88%) reported [16 years old to 18 years old] as the age of first sexual experience.

The results of research have revealed that:

Both students reported [Pregnancy] as the most concern when engaging in sex, followed by [Change in relationship] and [Sexually transmitted infection] of students of liberal arts course and nursing students, respectively.

1) Both liberal arts course and nursing course the students took sex education in the school educations before college enrollment; however, the education in the college was not reflected on the report of sexual consciousness and sexual behavior of nursing course.

2) As for sexual consciousness and sexual behavior, there was no big difference in reports of the students in liberal arts course and nursing course.

3) Although both students have information and knowledge on contraception, reliable measures of contraception are not yet performed.

4) As for the sexually transmitted infection, the results have shown that sexually transmitted infections are recognized among those students, but the students are less acquainted with the prevention measures.

Keywords: Sexual consciousness, Sexual information, Sexual behavior, Nursing college student, Student of liberal arts course